

令和5年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 卒後臨床研修センター

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 伊藤 量基

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>（文字1,000字以内：要望。①中期計画2022～2027、②令和5年度事業計画、③令和4年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>①中期計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床研修医のフルマッチと専攻医の増加（80名採用）を目指す。 総合医療センターにおいて卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認証を受ける。 <p>②令和5年度事業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 第三者評価（JCEP）評価結果に基づいた附属病院及び総合医療センターの研修環境改善を行う。 附属病院における卒後臨床研修評価機構 第三者評価（書面調査）の受審。 附属病院及び総合医療センターのフルマッチ継続。 <p>③令和4年度最終報告課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 附属病院及び総合医療センターJCEP受審後の指摘事項の改善を行う。 研修医定員増に向け、大阪府増員評価ポイント制度の見直しを行う。 内科のシーリング枠増に向けて研修医確保、内科学会、大阪府に働きかける。 <p>④独自の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 「医師の働き方改革」に伴う研修医の勤怠管理の徹底及び労働時間の適正管理 高度医療人育成制度の利用促進を促す。 	<p>令和5年5月30日開催委員会にて承認</p>
<p>中間報告</p>	<p>【令和5年度事業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 第三者評価（JCEP）評価結果に基づいた附属病院及び総合医療センター研修環境改善 <ul style="list-style-type: none"> JCEPの指摘事項について、臨床研修運営小委員会協力のもと以下のような改善を実施した。年度末に向けて、引き続き検討・改善を行う予定である。 <ol style="list-style-type: none"> 「インシデントレポート提出件数の増加」については、研修プログラム冊子の各診療科の行動目標部分に「医療安全への取り組みとしてインシデントレポートを作成できる」等の記載を行い、その必要性について研修医へ周知した。また、インシデントレポート数の増加施策について臨床研修運営小委員会で審議を開始した。 「病歴要約（症例レポート）の早期作成」については、「各ローテート最終日までに指導医へ提出すること」を研修プログラム冊子へ明記するとともに、「症例レポート管理表」を研修医へ共有し各個人で進捗状況を把握できるよう見える化した。 附属病院における卒後臨床研修評価機構 第三者評価（書面調査）受審 <ul style="list-style-type: none"> 初回受審時に指摘を受けた部分の改善点をまとめ、11月中旬に評価調査票を提出する予定である。 附属病院及び総合医療センターのフルマッチ継続 <ul style="list-style-type: none"> フルマッチ継続のため、病院見学の受入れ、臨床研修合同説明会「研修医と語ろう会」の開催（5月20日開催：参加者数54名）、レジナビフェア2023大阪への出展（7月2日：当院ブース訪問者113名）を行った。その結果、令和6年度研修医採用試験には過去最高の175名が出願した。 	<p>令和5年10月11日開催委員会にて承認</p>

[ここに入力]

<p style="text-align: center;">最終報告</p>	<p>【令和5年度事業計画】</p> <p>1. 第三者評価（JCEP）評価結果に基づいた附属病院及び総合医療センター研修環境改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JCEP の指摘事項について、臨床研修運営小委員会協力のもと以下のような改善を行った。 (1) 「インシデントレポート提出件数の増加」については、研修プログラム冊子の各診療科の行動目標部分に「医療安全への取り組みとしてインシデントレポートを作成できる」等の記載を行い、その必要性について研修医へ周知した。また、インシデントレポートの報告事例を掲示する等して、インシデントレポート作成に係る心理的ハードルの軽減に努めた。 (2) 「病歴要約（症例レポート）の早期作成」については、「各ローテート最終日までに指導医へ提出すること」を研修プログラム冊子へ明記するとともに、「症例レポート管理表」を研修医へ共有し各個人で進捗状況を把握できるよう見える化した。また、総合医療センターでは指導医等と研修医間の一層のコミュニケーション促進を図り未経験症例を経験させることを目的として、「症例レポート管理表の指導医への共有」を一部で開始した。 (3) 「倫理的ジレンマ、利益相反を認識し対応する方法」については、令和5年度採用研修医オリエンテーション時に「利益相反」、「医療倫理とアドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の講義を提供し、当該項目に対する理解を深めた。 (4) 「二次救命処置に係る研修」については、1年次研修医に ICLS 講習会受講を義務付け、附属病院・総合医療センター所属の1年次研修医全員が受講し、機会があれば院内開催の BLS 講習会のアシスタントとして指導した。 <p>2. 附属病院における卒後臨床研修評価機構 第三者評価（書面更新調査）受審</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JCEP 認定後2年目受審の書面更新調査において、初回受審時の指摘項目についての改善点をまとめたうえで、11月に評価調査票を提出した。 ・ 書面更新調査の結果、認定基準を達成していることを証する2024年2月1日付の認定証を受領した。 <p>3. 附属病院及び総合医療センターのフルマッチ継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属病院46名、総合医療センター7名の採用が決定した。 ・ 附属病院は9年連続、総合医療センターは15年連続のフルマッチであった。 	<p>令和6年2月28日 開催委員会にて承認</p>
<p style="text-align: center;">自己評価</p>	<p style="text-align: center;">成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前述のとおり、第三者評価に基づく指摘事項について、一定の改善をみた。 ・ 附属病院において NPO 法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価（書面更新調査）を受審し、認定を受けた。 ・ 附属病院、総合医療センターともにフルマッチを継続した。 	
	<p style="text-align: center;">課題</p> <p>1. 第三者評価受審後の指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「CPC の補完措置」及び「インシデントレポート提出数の増加」について、引き続き臨床研修運営小委員会協力のもと検討する予定である。 ・ 症例レポートの早期作成支援として実施した「症例レポート管理表及び教育医長への共有」の効果測定を、令和6年度以降に実施する予定である。 <p>2. 研修医の社会人教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部研修医において、勤務実態が不明瞭であり、かつ勤務態度が社会人として望ましくない事案があったことから、令和6年度はオリエンテーションを通じて「研修医の社会人教育」の支援を行う予定である。 <p>3. 基本的臨床能力評価試験（JAMEP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度から1・2年次研修医が年1回受験している当該試験の平均点の向上をめざす。 <p>4. 9年、15年連続フルマッチではあるが大阪医科薬科大学などと比較すると第1志望の志願者が少ない。今後研修医と指導医との懇談会を年3回程度開催し初期研修医の意見をくみ上げより充実した初期研修が当大学で実施出来るよう改善を図る。</p>	

[ここに入力]